

健康が第一であると気付いたきっかけ

約30年前、当時の社長と当時の専務（現社長）が突然同時期に大病に襲われ、現場へ復帰できるまでに数か月を要するという事態が起こりましたが、当時在籍していた社員が力を合わせ、見事に数多くの困難を乗り越ってくれました。しかしながら健康に対し無頓着であった私自身はそれまでの考え方を見つめ直し、あらためて健康であることのありがたさに気が付き、すべてにおいて健康が第一なのであると痛感しました。

今では私自身の健康についてはもちろんのこと、社員の健康意識向上に向けて効果的であると思える取り組みについても積極的に取り入れております。その1つである「健康経営優良法人認定」も紹介いただいたアクサ生命の定期的な情報提供や健康セミナー等のサポートを受けながら、今年度で早くも5度目の認定となります。



健康セミナーは全社員が参加

従業員の充実は企業の充実

みんなに平等に与えられているもの、それは1日が24時間であるということです。その内の約8時間は睡眠、そして約8時間は仕事をしていると考えれば、残りの約8時間をいかに充実した時間にすることができると、ここが人生の充実度に大きく左右するものと考えています。

そんな観点から通勤にはできるだけ時間が掛からないようできる限り本社に近い地域に住んでいる方を採用するなど、少しでも勤務間インターバルが作れるよう工夫をし、ワークライフバランスが叶えられる環境づくりを重視しています。



近畿刃物工業株式会社の本社

福利厚生とは企業で働く社員の安心に繋がる仕組み作り

経営者となって約25年間の時が経ち最近ふと思うことは、企業とは誰かだけの力のみで成り立っているのではなく、1人1人の目標や目的、夢を叶えるための原動力、そして稼ぎたいという気持ちが大きな塊となって成り立っているのだと感じます。

そう考えると例えば家庭を持つ社員であれば、配偶者の方に弊社が良い会社であると思ってもらえること、子供がいるのであれば子供さんに、自慢できる会社で働いているのだと胸を張って言える企業であり続けることが大切なのではないのでしょうか。

そして経営者は「その人が働く為のスイッチ」がどこにあるのかを探し出し、そのスイッチがONになる仕組みを作り続けること、良い連鎖を作り続けることが求められるのだと思います。

福利厚生とはその一躍を担ってくれる制度であるものと考えており、今年度は社員が癌に罹患した際、直接社員自身が給付金を受け取ることができる制度を導入しました。



本当の意味での終身雇用を目指す

何事も何かを始めるよりも、何かを継続させることの方が難しいと言われますが経営においても同様であると思っています。消えてしまえばそこで終了ですが、在り続けさえすれば運を掴むチャンスが生まれます。しかしチャンスはいつ訪れるかはわかりません。だからこそ社員が長く、元気で働き続けてくれることこそが経営において1番大事なことなのだと確信しています。1年が経てば私も含め、全社員が1つの年齢を重ねる訳ですが、「健康でいてくれさえすればいつまでもうちの会社で働き続けて欲しい、そして社員全員が豊かな人生を送ってほしい」そんなことを心の中で思い続けております。

